

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「すすんでチャレンジ 共にかがやく 心豊かな秋葉の子」
○学ぶ楽しさ できる喜びを実感し、粘り強くやりとげる子を育てます。(知)
○自分も周りの人も大切に作るあたたかい子を育てます。(徳)
○心と体をきたえ、生命と体を大切に作る子を育てます。(体)
○みんなのために自分ができることをすすんで行う子を育てます。(公)
○人とのコミュニケーションを大切に、共に生きようとする子を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈自分づくりに関する力〉
〈言語能力〉

具体化した資質・能力

好奇心をもち、積極的に学ぶ態度 自己を理解する姿勢
自分らしさを発揮しようとする姿勢 積極的に活動に取り組む姿勢

中期取組目標

○豊かななかかわりの中で、子ども一人ひとりを大切に作る学校にします。
・教師一人ひとりの授業力向上を図り、学習の楽しさを実感できる授業を目指します。
・組織的な対応で有効に機能する児童指導を通して、子ども同士が個々の人格を大切にできるようにします。
・一人ひとりが自己有用感をもち、自分らしさを発揮できるようにします。
・食育、健康教育、体力づくりの充実に努め、健康な心と体の維持、増進を図ります。
・あいさつ運動を推進する中で、自主性や協調性の気持ちを育てます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (学習指導) and 具体的取組 (①重点研究を中心に全教科を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行い、自分づくりに関する力と考えや思いを表現する力の育成を目指す。②身に付けるべき力を明確にし、系統性や横断的な教科の関わりを意識した学習活動を展開していく。)

学力向上に関わる本校の状況
【横浜市学力・学習状況調査からの実態把握】
教科の学力は、学年によって多少異なるが、令和4年度の2年～6年(現在の3年～中1年)は、横浜市の平均を上回っている学年が多い。また、各学年の教科ごとに知識を問う問題と思考力を問う問題の正答率を見ていくと、算数では、知識を問う問題に比べて思考力を問う問題の正答率が高いことが分かる。児童の実態に応じた指導や支援を行いながら、知識や技能を日常生活に生かしたり、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを育んだりする学習に取り組んできた結果と考える。一方で、知識を問う問題の正答率はやや低いことから、引き続き、知識及び技能の定着に努めながら、思考力、判断力、表現力の育成を図っていく必要がある。
また、学習意識を令和3年度のチャートと比べると、学習に対する意識は全体的に見るとやや高まっていることがわかる。算数については横浜市の平均を上回っている学年が多い。
いずれの教科においても、知識や技能を確実に習得し、日常生活や実社会との関連を深め、主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとするなど、児童の実態に応じた指導や支援を工夫しながら、日々の授業改善に取り組んでいく必要がある。児童が学ぶ意欲や学びの楽しさ、学ぶことの意義を実感でき、自分の考えを自信をもって進んで表現できる授業づくりに努めていきたい。

今年度の目標
○できる・わかる・使える喜びや、学ぶ楽しさが実感できる授業を通して、問題解決に粘り強く取り組み、自分の考えを進んで表現しようとする子の育成を目指す。
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
I. 主体的に学びに向かうために II. 自分の考えを進んで表現できるように の実現を目指す。
(1) I、II、それぞれの手立てを工夫した授業づくりを行う。
Iについては、主体的に学びに向かうと共に、一人ひとりが自分の考えをもつことができるか、
IIについては、Iを受けて、自分の考えを表現することができるかという視点で手立てを講じる。
(2)下記①～③のポイントを意識した授業改善に努めることで、「主体的に学びに向かい、自分の考えを表現できる子の育成」の実現を目指す。
①資質・能力の明確化
・児童に育成を目指す、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」の三つの資質・能力を分析する。
②児童の実態に基づいた指導の重点化
・日々の授業からわかる主観的な実態だけでなく、国や市の学力・学習状況調査の結果や、育成を目指す資質・能力を見据えたレディネステスト、YPAセサメントの学級風土チェックなどの客観的な実態も加味して、児童の実態を正しく把握する。その上で、一人ひとりに確かな学びが保障され、資質・能力の育成につながる指導の重点化ポイントを検討していく。
③問題発見・解決の過程を重視した指導計画の作成(Plan)・実施(Do)・評価(Check)・改善(Action)
・問題発見・解決を重視して、PDCAサイクルによる授業改善を行う。年間を通して児童の力を積み重ねていくことをねらっているため、適宜、学年研等で教材研究を行い、学習計画・めあての設定や振り返り等を中心に日々の授業の改善がなされるように努める。
④学習会や講演会を開催し、今年度は特に算数教科教育についての見識を深める。
下半期
I. 主体的に学びに向かうために II. 自分の考えを進んで表現できるように の実現を目指す。
(1) I、II、それぞれの手立てを工夫した授業づくりを行う。
Iについては、主体的に学びに向かうと共に、一人ひとりが自分の考えをもつことができるか、
IIについては、Iを受けて、自分の考えを表現することができるかという視点で手立てを講じる。
(2)下記①～③のポイントを意識した授業改善に努めることで、「主体的に学びに向かい、自分の考えを表現できる子の育成」の実現を目指す。
①資質・能力の明確化
・児童に育成を目指す、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」の三つの資質・能力を分析する。
②児童の実態に基づいた指導の重点化
・日々の授業からわかる主観的な実態だけでなく、国や市の学力・学習状況調査の結果や、育成を目指す資質・能力を見据えたレディネステスト、YPAセサメントの学級風土チェックなどの客観的な実態も加味して、児童の実態を正しく把握する。その上で、一人ひとりに確かな学びが保障され、資質・能力の育成につながる指導の重点化ポイントを検討していく。
③問題発見・解決の過程を重視した指導計画の作成(Plan)・実施(Do)・評価(Check)・改善(Action)
・問題発見・解決を重視して、PDCAサイクルによる授業改善を行う。年間を通して児童の力を積み重ねていくことをねらっているため、適宜、学年研等で教材研究を行い、学習計画・めあての設定や振り返り等を中心に日々の授業の改善がなされるように努める。
④年4回の算数科の研究授業を行い、授業改善を図る。
⑤令和5年度の学力・学習状況調査の結果の分析を行う。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (特別支援教育) and 具体的取組 (①「どの子どもみんな 秋葉の子」を掲げ、どの子どもに必要な指導・支援が受けられるよう、全教職員の意識向上・情報共有に努める。②児童・保護者のニーズを把握するための教育相談の充実、校内研修による教師のスキルアップを図り、安心して学べる環境を整える。)

豊かな心に関わる本校の状況
【児童の実態】
・どの学年も明るく素直で物事に対してがんばろうと前向きに取り組もうとする子が多い。
・自分の考えや気持ちを口に出して表現するのが苦手である。
・学年が上がるにつれて、あいさつを自分から進んでできない子が増えている。
・保護者や地域が、比較的の学校に対して関心が高く協力的である。
【本校における特別支援教育のイメージ図】
(イメージ図: 個別支援室での指導・支援、個別支援室・フリースクールでの指導・支援、チャレンジルーム、通級指導室等での指導・支援、一般学級における個々の支援・配慮、少人数・TT、AT)

今年度の目標
○どの子どもにとっても居心地のよい学級づくりを目指す。
○できた！わかった！を積み重ねられる学習支援、授業の工夫に取り組む。
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
○TTおよび個別学習に関しては「チャレンジタイム」、特別支援教室「チャレンジルーム」の名称を使用する。学習支援には、担当教諭1人での一斉指導のみでなく、複数対応でのTT(チームティーチング)、少人数学習、個別学習など、児童の特性・現状に合わせて校内委員会で検討・選択していく。当該学年の課題に限らず、学年をさかのぼっての補充学習、学習の仕方の学習、コミュニケーション、ルールやマナーの学習などを行う。
○児童・保護者のニーズを把握するための教育相談の充実、校内研修による教師のスキルアップを図り、安心して学べる環境を整える。
○教師自らが多様な支援のあり方を知り、理解を深めていくことが求められる。学校全体が、様々な場で支援を受けながら学ぶ児童の存在を受容し、「どの子どもみんな秋葉の子」として、日々の指導、学校風土づくりに取り組んでいく。
○1時間の授業の中にその子なりの「できた！」「わかった！」があることが、児童一人ひとりの学級への所属感、居心地感にもつながることを十分に意識した上で、特別な支援のあるなしにかかわらず、「できた！」「わかった！」「わかった！」につながる学習支援、どの子どもも参加できる場面、時間のある授業の工夫に取り組んでいく。
下半期
○TTおよび個別学習に関しては「チャレンジタイム」、特別支援教室「チャレンジルーム」の名称を使用する。学習支援には、担当教諭1人での一斉指導のみでなく、複数対応でのTT(チームティーチング)、少人数学習、個別学習など、児童の特性・現状に合わせて校内委員会で検討・選択していく。当該学年の課題に限らず、学年をさかのぼっての補充学習、学習の仕方の学習、コミュニケーション、ルールやマナーの学習などを行う。
○児童・保護者のニーズを把握するための教育相談の充実、校内研修による教師のスキルアップを図り、安心して学べる環境を整える。
○教師自らが多様な支援のあり方を知り、理解を深めていくことが求められる。学校全体が、様々な場で支援を受けながら学ぶ児童の存在を受容し、「どの子どもみんな秋葉の子」として、日々の指導、学校風土づくりに取り組んでいく。
○1時間の授業の中にその子なりの「できた！」「わかった！」があることが、児童一人ひとりの学級への所属感、居心地感にもつながることを十分に意識した上で、特別な支援のあるなしにかかわらず、「できた！」「わかった！」「わかった！」につながる学習支援、どの子どもも参加できる場面、時間のある授業の工夫に取り組んでいく。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (①食育に関する集会や授業を行う。②縄跳びチャレンジや意図的に作成した縄跳びカードの活用など、年間を通じて体力の向上を図るとともに家庭への啓発も行う。③歯科保健や情報機器との上手な関わり方を通じて、より良い生活習慣の獲得につなげる。)

健やかな体に関わる本校の状況
(1) 体育・健康に関する実態
・体育科基本調査では、ほとんどの学年・種目で通過率が市平均を上回っているが、水泳学習においては、どの学年も平均を下回っている。
・近年の歯科検診時に歯磨きが不十分であったり、歯肉に炎症が見られると診断を受ける児童が多く、効果的な歯みがきの方法を身に付ける必要があることも、生活習慣を見直し、自らの健康への課題に気付く力を育てる必要があると考える。
・YPAセサメントの調査では、全体的に自尊感情と自己表現の数値が低い児童が多い。
・縄跳びチャレンジでは、クラスや学年で目標を決めることで長縄跳びに進んで取り組む様子が見られた。短縄への取組に対しても、年間を通じて主体的に取り組むことができるように、縄跳びカードの改善をしていく必要がある。
(2) 体力の概要と要因の分析(小学校は全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用)
新体力テストの結果を見ると、多くの学年・種目で横浜市の平均を下回っている。特に「力強さ」「体の柔らかさ」の2つの運動特性において、下回っている学年が多い。外に出る機会は増えてきたものの、まだ全身を使った遊びや運動を行うことが十分ではないことやなどが要因として考えられる。

今年度の目標
○体育・健康に関する活動を日常的に位置付けて取り組むことで、規則正しく健康な生活を送ろうとしたり、運動を日常生活の中に積極的に取り入れようとする子の育成を目指す。
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
《体育科での取組》
・場の設定や慣れた運動を工夫し、身に付けるべき指導事項を身に付けられるようにする。また、子ども同士や学習資料との対話を通して、学びを深められるようにする。
・「毎日の健康」(3年)・・・基本的な生活習慣の確立、清潔行動の見直し
・「心の健康」(5年)・・・ストレスマネジメントへの理解・実践
《他教科での取組》
・食育との関連を図り、「簡単な調理の仕方」「家族のための食事を作ろう」などの活動を行っていく。
・歯科巡回指導を実施し、歯磨きを通じて自らの健康生活を見直す機会をつくる。
《総合》
・稲作や野菜作りの収穫や収穫したものの食事作りにチャレンジすることで食に対する意識を高める。
《その他》
・学校保健委員会での取組・・・身の回りの環境に興味を持ち、そうじを中心とした主体的な取組を実施する。
・夏休みの取組・・・自身の課題や目標にあった生活習慣の見直しと確立
・秋葉 健康・体力アップチャレンジの実施
―運動委員会 秋葉縄跳びチャレンジ、長縄集会
―保健委員会 熱中症の予防、病気の予防、身の回りの環境整備
―給食委員会 食育月間 食材やマナー等について
下半期
《特活》
・食の重要性、栄養や食の取り方、食品の正しい知識、感謝の心、食生活のマナー、食文化や歴史を知り尊重する心について学習しながら、自分の食生活を見直す。
《総合》
・稲作や野菜作りの収穫や収穫したものの食事作りにチャレンジすることで食に対する意識を高める。
《その他》
・学校保健委員会での取組・・・身の回りの環境に興味を持ち、そうじを中心とした主体的な取組を実施と振り返り
・冬休みの取組・・・自身の課題や目標にあった生活習慣の見直しと確立
・秋葉 健康・体力アップチャレンジ！の実施
―運動委員会 秋葉縄跳びチャレンジ、長縄集会
―保健委員会 熱中症の予防、病気の予防、身の回りの環境整備
―給食委員会 地産地消月間、給食週間 食材やマナー等について